

令和2年度事業報告書

自 令和2年4月 1日

至 令和3年3月31日

1. 事業概要

一般財団法人奈良市総合財団は、奈良市が設置する50の公の施設の指定管理者として、利用者の視点に立った管理運営に努め、多様化するニーズに応じてあらゆる人にとって利用しやすい施設を目指すとともに、文化・スポーツ・武道の普及事業及び「ならまち」・「都祁地域」の歴史文化遺産を利用した地域振興事業並びに中小企業勤労者に対する福利厚生事業を実施し、文化の創造及び市民福祉の増進に努めた。

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症拡大による臨時休館もあり利用者の減少とはなったものの、市民の皆様が安心・安全に利用できるよう細心の対策を講じて施設管理や事業の取り組みを進めた。

当財団の運営に当たっては、奈良市の進める行財政改革の方針に則り、自らの経営改革を職員の総意をもって進め、厳しい財源の中で施設管理及び事業の質的向上に努め収益性の追求や経費節減等に積極的に取り組んだ。

今後も引き続き市民の要望にきめ細かく対応できるよう努力を重ね地域社会の発展に寄与するべく事業運営を重ねていく。

2. 事業内容

各施設の設立趣旨等を踏まえた管理運営と文化の創造と福祉の増進に寄与することを目的として文化振興事業、スポーツ・武道振興事業、まちづくり振興事業、勤労者福祉サービス事業、都祁地域振興事業を推進した。

(1) 文化振興事業

[指定管理施設]

管理施設の入館者数は以下のとおりであった。 ※（ ）内は対前年度比

なら100年会館	入館者数	26,684人	(△88.6%)
奈良市美術館	入館者数	15,858人	(△54.3%)
奈良市北部会館市民文化ホール	入館者数	33,828人	(△54.8%)
奈良市杉岡華邨書道美術館	入館者数	2,040人	(△66.8%)

新型コロナウイルス感染症の影響ですべての管理施設において約2ヶ月間(4月・5月)の臨時休館や再開後も利用制限、主催事業の中止等により、入館者が大幅に減少した。

なら100年会館では、各種事業や貸館の使用中止や公演の開催延期、また、12月

1日から3月31日までの4ヶ月間、エントランスホールの雨漏り修繕工事及び音響更新工事のため、大ホールと中ホールの使用が不可であったことにより約208,000人の減少となった。また、奈良市北部会館市民文化ホールでは、利用者の多い催しの中止や開催回数の減少、各種事業の見直しの影響、高齢者中心の教室参加者の減少もあり約41,000人の減少となった。

奈良市杉岡華邨書道美術館では、臨時休館やならまち界隈の観光客が激減したこと、講座等行事イベントの中止により、入館者が約4,100人の減少となった。奈良市美術館においても貸館の使用中止やキャンセルもあり、実施した事業においても入場制限や外出自粛等が影響し、入館者が約18,900人の減少となった。

(事業内容)

豊かな市民文化の形成を図り、鑑賞・創造・学習を柱に市民の美術鑑賞と創作活動の活性化に寄与するための事業を実施した。

○なら100年会館

多くの事業が中止や延期を余儀なくされる中、入場制限を守る等の感染症対策を講じた上で大阪交響楽団のクラシックコンサート、郷ひろみや藤井フミヤ等のアーティストによるコンサート、子どもたちを中心としたファミリー向けコンサートや人形劇公演、そのほか体験事業として種類の違うピアノを弾き比べできるピアノ試弾会を開催する等、コロナ禍の中でも市民の方々に音楽の素晴らしさを再認識していただくことができた。

また、ソーシャルディスタンス確保のため定員を削減する等の感染症対策を講じた上で健康いきいき講座(ヨガ教室、ソフトストレッチング教室、ピラティス教室)や新規企画の事業「なら100年会館こども体操教室」を開催し市民の健康維持に寄与することができた。

催事等の開催回数 151回 参加人数 7,268人

○奈良市美術館

奈良市立の小・中学校、高等学校、養護学校と連携して児童生徒の図工美術の成果を紹介する「奈良市児童生徒作品展」、奈良市美術家協会と連携して会員による優れた作品を展示する「第39回奈良市美術家展」、美術作品の創作意欲を高めるための公募展「第39回市展なら」と主催・共催による展覧会を開催した。展示事業においては、奈良公園開園140年記念として、奈良公園の移り変わりや鹿をモチーフにした各時代のデザインや奈良公園に生息する糞虫や生き物たちの写真を紹介する「奈良公園開園140年 奈良を観る～ならのシカと昆虫たち～」展を開催した。また、奈良市美術館活性化事業「オープンミュージアムプロジェクト」では、昨年開催した映像作家 林勇気氏による映像展が好評を得たことから、引き続き同作家の映像展「横を向いたつもりでどこを見ているの？」展と子どもワークショップ「みたことがない

トイレをつくろう」の成果展示の展覧会を開催し、子どもから大人まで現代アートを鑑賞・体験していただくことを通じて現代芸術についての魅力を発信した。

その一方で、新型コロナウイルス感染症拡大のため、毎年、奈良市美術家協会と連携して開催している人気の講座「2020年度市民実技講座・親と子のやさしいアート体験」、「第38回市民実技講座作品展」を中止することとなった。

催事等の開催回数 14回 参加人数 8,896人

○奈良市北部会館市民文化ホール

文化施設利用のための奈良市の対応方針、各種感染防止ガイドライン等を遵守した上で、8月から文化サークル活動が活発な地域性を生かし「高の原文化・健康講座」等18講座、日本文化の継承・異世代交流の場としての「和楽器講座」、近隣に在住するアーティストを紹介し地域の文化振興に繋がる事業として「姫野真紀1コイン・ピアノコンサート～ベートーヴェンに寄せて～」、有名なクラシックの楽曲をプロのピアニスト演奏により身近に親しんでもらう「田尻洋一トーク&ピアノコンサート」を開催した。また、地元で活発に活動する平城ニュータウン文化協会と連携して各講座・同好会の作品展示、活動の様子を収めたDVDをテレビモニターで放映する「第38回平城ニュータウン文化祭」を開催し、地域の賑わい作りに寄与した。

催事等の開催回数 447回 参加人数 5,419人

○奈良市杉岡華邨書道美術館

秋季企画展として近現代のかな書の歴史をたどるシリーズの最終回となる「近現代かな書の流れ④ 現代かな書の展開」を開催し、現代かな書壇で活躍する10名の作家の作品を紹介した。また、開館10周年に開催した「平城遷都1300年記念 日本代表書作家展」にて、書壇を代表する全国102名の作家により奈良や大和をテーマに制作された作品を「開館20周年記念 奈良万葉の書」展にて4期にわたり紹介した。

冬季館蔵品展として、現代書道二十人展や臨池会新春展に出展された杉岡華邨作品を一堂に集めた「新春を彩った華邨のかな」展を開催した。

「書道実技講座」では毎年恒例の初心者でもすぐに生かせる「年賀状の書き方」講座に加え、かな作品を実作する方を対象に通信添削と講評会で指導する「かなの散らしを楽しむ」講座を新たに開催し、子ども向けの「筆書き体験コーナー」や学芸員による「作品解説会」を開催した。

そのほかにも、他施設との連携協力の一環として杉岡華邨とかな書作品を紹介する出張パネル展「万葉と華邨のかな書」を名勝大乘院庭園文化館にて開催し、奈良市杉岡華邨書道美術館の広報普及を行った。

催事等の開催回数 24回 参加人数 3,428人

(2) スポーツ・武道振興事業

[指定管理施設]

管理施設の利用者数は以下のとおりであった。 ※ () 内は対前年度比

奈良市鴻ノ池陸上競技場等 11 体育施設

利用者数 353, 236 人 (令和2年度より管理運営)

奈良市鴻ノ池陸上競技場 (愛称: ならでんフィールド)

奈良市鴻ノ池球場 (愛称: ならでんスタジアム)

奈良市鴻ノ池コート (愛称: ならでん鴻ノ池コート)

奈良市中央体育館 (愛称: ならでんアリーナ)

奈良市中央第二体育館 (愛称: ならでん第二アリーナ)

奈良市南部生涯スポーツセンター体育館

奈良市柏木コート

奈良市南部生涯スポーツセンターコート

奈良市柏木球技場

奈良市南部生涯スポーツセンター球技場

奈良市南部生涯スポーツセンター多目的コート 以上 11 施設

奈良市中央武道場等 4 体育施設

利用者数 56, 648 人 (△54.2%)

奈良市中央武道場 (愛称: ならでん武道場)

奈良市中央第二武道場 (愛称: ならでん第二武道場)

奈良市弓道場 (愛称: ならでん弓道場)

奈良市鴻ノ池相撲場 (愛称: ならでん相撲場) 以上 4 施設

奈良市西部生涯スポーツセンター等 18 施設

利用者数 217, 475 人 (△27.8%)

奈良市緑ヶ丘球場

奈良市西部生涯スポーツセンター体育館

奈良市青山プール

奈良市西部生涯スポーツセンター屋内温水プール

奈良市黒谷コート

奈良市平城第一コート

奈良市平城第二コート

奈良市青山コート

奈良市佐保山コート

奈良市西部生涯スポーツセンターコート

奈良市黒谷球技場

奈良市平城第一球技場

奈良市平城第二球技場

奈良市奈良阪球技場

奈良市登美ヶ丘球技場

奈良市西部生涯スポーツセンター球技場

奈良市西部生涯スポーツセンターゲートボール場

奈良市西部生涯スポーツセンタークラブハウス 以上18施設

令和2年4月1日より奈良市鴻ノ池陸上競技場等11体育施設を指定管理者の奈良市スポーツまちづくり推進パートナーズ代表ミズノスポーツサービスと協働で管理運営を行った。新型コロナウイルス感染症拡大防止及びクラスター連鎖防止のため大会及び事業の中止、施設の使用制限を行い、また、緊急事態宣言により鴻ノ池運動公園（愛称：ならでんパーク）を閉鎖した。6月1日より施設の利用を再開、7月1日より事業を再開したものの屋外及び屋内の記録会、大会等は利用制限、規模を縮小しての開催となった。

奈良市中央武道場等4体育施設も鴻ノ池運動公園の敷地にあることから奈良市鴻ノ池陸上競技場等11体育施設と同様の対応となった。

奈良市西部生涯スポーツセンター等18施設では、屋内温水プール及びトレーニング室が2月28日から5月31日まで休業、そのほかの施設は4月11日から5月31日まで臨時休館となった。また、6月の利用再開後の3ヶ月間、屋内温水プール及びトレーニング室は16時30分までの時短営業となった。これらの状況から、18施設全体での利用者数が約83,700人の減少となった。

奈良市青山プールは7月18日から8月31日まで無休で開場したが、90名の入場制限を行い、約3,500人の減少となった。

（事業内容）

体育、スポーツ及び武道の普及振興を図ることにより、健全な心身の維持及び発達並びに明るく豊かな生活の形成に寄与するための事業を実施した。

○奈良市鴻ノ池陸上競技場等11体育施設

奈良市体育協会に加盟している各種団体と連携して競技スポーツの教室や健康増進につながる事業を実施した。また、「Top Sports City 奈良」のパートナーチーム「バンビシャス奈良」、「奈良クラブ」と提携してバスケットボールスクール、サッカースクールを開催した。指定管理者の継続事業として「少年少女陸上教室」、「ジョイトレ」、「バドミントンスクール」、また各施設の自主事業は、感染症対策を講じて規模を縮小して開催した。

催事等の開催回数 532回 参加人数 8,604人

○奈良市中央武道場等4体育施設

武道発祥の中心地として、剣道・柔道・なぎなた・槍術・弓道等の各種武道関連団体との連携協力のもと武道教室を開催し、人格の形成、道徳心の向上、礼節を尊重する心の養成を図るとともに、武道人口の裾野の拡大及び武道の更なる発展・活性化に努めた。

そのほか「操体法教室」、「ノルディックウォーキング教室」を開催した。

催事等の開催回数 522回 参加人数 16,911人

○奈良市西部生涯スポーツセンター等18施設

屋内温水プールを活用した「水泳教室」や「水中健康運動教室」等施設の特性を生かした自主事業を通年で実施する計画であったが、施設利用が6月再開となり、自主事業の開催が9月から3月までとなった。また、それぞれの教室の定員やクラス数を縮小したことと、世情を鑑みての申し込み見合わせとが重なり、前年度から延べ回数が184回減、延べ受講人数が約4,300人減少した。

催事等の開催回数 594回 参加人数 8,001人

(3) まちづくり振興事業

[指定管理施設]

管理施設の入館者数は以下のとおりであった。 ※（ ）内は対前年度比

奈良市ならまちセンター	入館者数	20,506人	(△71.1%)
奈良市音声館	入館者数	33,377人	(△42.6%)
なら工藝館	入館者数	20,275人	(△53.6%)
入江泰吉記念奈良市写真美術館	入館者数	24,286人	(△31.1%)
入江泰吉旧居	入館者数	3,101人	(△51.6%)
奈良市ならまち格子の家	入館者数	33,093人	(△57.5%)

新型コロナウイルス感染症の影響からすべての管理施設において約2ヶ月間(4月・5月)の臨時休館や再開後の利用制限、主催事業の中止等により、入館者が大幅に減少した。

奈良市ならまちセンターでは、事業の中止や施設利用の相次ぐキャンセルが発生し、約50,400人の減少となった。奈良市音声館においても、約24,700人の減少となった。

なら工藝館では、事業が中止となり、また、観光客及び修学旅行生等の来館がなく、約23,400人の減少となり、奈良市ならまち格子の家においても、約44,800人の減少となった。

入江泰吉記念奈良市写真美術館では、イベント中止や貸館のキャンセル、外出自粛等により約11,000人の減少となった。入江泰吉旧居では、前年度に引き続き入館者を獲得するため、事業の充実を図ったが、新型コロナウイルス感染症の影響もあり約3,

300人の減少となった。

(事業内容)

なら・まほろば景観まちづくり条例に基づく奈良町都市景観形成地区を中心とした「ならまち」において、地域の文化振興・活性化のための事業及び広報啓発事業を実施した。

○奈良市ならまちセンター

大半の自主及び企画事業を中止したが、開催時期の見直しや入場制限等の対策を徹底し、出来る限り会場内の十分な換気を行いながら開催可能であると判断した以下の5事業のみを行った。

奈良出身の出演者を起用した「ならまち邦楽コンサート」や「ならまち落語会」、市民連携事業として開催した「劇団高円朗読劇公演」、地域やNPOとの協働事業「子どもおん祭」や奈良町落語館との共催による「南都落語会」を開催した。

催事等の開催回数 5回 参加人数 581人

○奈良市音声館

臨時休館により多くの事業を中止、若しくは開催回数を大幅に減らして実施した。

その中で、感染症対策を講じた上で開催した事業は、奈良で古くからうたわれてきた“わらべうた”を後世に伝える「ならまちわらべうた教室」、子どもに伝統文化や音楽を学ぶ場として「伝統文化を学ぼう～子どもお茶教室・子どもいけ花教室」、「子ども邦楽教室～箏・三味線・尺八～」を行った。奈良の民話普及事業では、例年開催している民話を題材にした創作ミュージカル公演を中止し、大型紙芝居の公演のみを行った。また、アウトリーチ活動として、「ならまち格子の家」での民話の語りを開催し、小学校等への大型紙芝居の出張公演を行った。わらべうた普及事業である「出張わらべうた教室」は数回であるが依頼を受け開催した。

また、同館スタッフによる「エントランスコンサート」や一般市民が出演・出展する「やわらぎコンサート」、「ミュージックフェスティバル」、「音声館ギャラリー制作教室」が中止となり、その代替え事業として、「スタインウェイピアノを弾いてみよう」を開催し好評を得た。

催事等の開催回数 168回 参加人数 3,230人

○なら工芸館

奈良工芸フェスティバル、常設展示室の作品展示企画「日本伝統工芸近畿展IN奈良2020」が中止となった。

工芸制作教室(8種目・9教室)については状況を見て、7月より開催した。また、伝統工芸後継者育成制度による第5期生3名の研修生が、工房主の下での研修及び当館において制作実演を行った。観光協会との事業として奈良市総合観光案内所にて工芸品の出張展示及び一刀彫の実演・販売を行った。子どもを対象にした夏休み期間中

の工芸教室、奈良団扇の「一日体験工芸教室」を開催した。企画展として販売コーナーにおいて納涼展、干支展、雛展を開催した。

催事等の開催回数 118回 参加人数 12,309人

○入江泰吉記念奈良市写真美術館

展示事業では、入江泰吉の代表作品を中心に構成して展覧会を開催した。入江泰吉写真集の刊行を記念した「入江泰吉 万葉集」展では、写真集とタイアップすることにより相乗効果を得て入江氏の顕彰にもつながった。また、著名な写真家である石川直樹氏、妹尾豊孝氏の写真展や新たな試みとして世界的写真コレクターであるマーク・ピアソン氏のコレクションを展覧会という形で初公開し注目を集めた。

展示事業以外では、アウトリーチ活動として、奈良県高等学校写真部会と共催で総合文化祭や写真部活性化のための事業を開催した。また、当館学芸員や技術員が積極的に出張講座等を行い、写真文化の普及に努めた。

奈良市との共催事業として、「第四回入江泰吉記念写真賞」及び「第四回ならPHOTO CONTEST」を開催し、入江泰吉氏の功績の顕彰と写真文化の発展に努めた。

なお、臨時休館となったことや、イベント、講座を縮小して開催したことにより参加人数に大きな影響が出た。

催事等の開催回数 89回 参加人数 22,850人

○入江泰吉旧居

新型コロナウイルス感染症の影響による臨時休館や奈良を訪れる観光客自体が激減したことにより、入館者数は減少となった。事業においては、感染症対策を講じた上で「入江泰吉で、はじめの一句」、「入江泰吉さんぼみち」や「入江泰吉の眼を歩く」等を実施した。また、旧居の暗室を使つての事業については、密室で行うため今年度の実施は見送った。これらにより昨年度に比べ事業数と参加者数は減少した。

催事等の開催回数 19回 参加人数 175人

○奈良市ならまち格子の家

新型コロナウイルス感染症の影響で臨時休館になり来館者が大幅に減少した。細心の感染症対策を講じて来訪者に対する案内業務（受付やならまち観光の見所紹介）、「ならまちの歴史と町並み紹介」の常設展示、そのほかパネル展等を開催した。「奈良の民話を楽しもう」を年8回、このほか、なら町家研究会による「ならまちの移り変わり1985～2020」を1月に開催した。

催事等の開催回数 28回 参加人数 1,421人

(4) 勤労者福祉サービス事業

[指定管理施設]

管理施設の入館者数は以下のとおりであった。 ※（ ）内は対前年度比

奈良市勤労者総合福祉センター 入館者数 26,414人 (△51.3%)

奈良市勤労者総合福祉センターでは、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策による臨時休館と施設利用者数の人数制限により、入館者数は減少した。

(事業内容)

地域経済の担い手である中小企業勤労者を対象に、福祉の向上及び余暇活用の充実、生活の安定を図るため、総合的な福祉事業を実施した。

○奈良市勤労者総合福祉センター

臨時休館により多くの事業を中止、開催回数や人数制限等、感染症対策を講じた上でパソコン教室やヨガ教室、陶芸教室のほか、各種教室を開催した。

催事等の開催回数 32回 参加人数 2,331人

○勤労者福祉サービスセンター事業部門

企業内福祉をサポートする役目を担い、勤労者の福利厚生の実現に役立つ事業を実施した。具体的には、市内の中小企業の事業所に対し、福祉事業の内容について広報を行うとともに加入の促進を図った。また、福利厚生事業として会員及びその家族を対象に、新型コロナウイルス感染症防止対策を講じた上での日帰りバスツアーや施設割引利用、会員の相互扶助を基本とした各種給付事業、健康維持・健康増進事業及び文化各種教室の受講費補助を行う健康管理事業並びに貸付斡旋事業を実施した。

催事等の開催回数 2回 参加人数 102人

本施設における各事業に対する利用者数

施設利用事業 延べ人数 13,644人

健康管理事業 延べ人数 3,171人

給付事業 913人

(5) 都祁地域振興事業

[指定管理施設]

管理施設の入館者数又は利用者数は以下のとおりであった。 ※（ ）内は対前年度比

奈良市都祁交流センター 入館者数 5,058人 (△69.2%)

奈良市都祁体育館 利用者数 6,673人 (△23.9%)

奈良市都祁生涯スポーツセンターコート
利用者数 2,928人 (4.3%)

奈良市都祁生涯スポーツセンター球技場
利用者数 7,600人 (△34.3%)

奈良市都祁生涯スポーツセンター多目的コート
利用者数 55人 (△75.3%)

奈良市都祁生涯スポーツセンタークラブハウス

利用者数 0人 (△100%)

新型コロナウイルス感染症の影響ですべての管理施設において約2ヶ月間(4月・5月)の臨時休館や再開後の利用制限、主催事業の中止等により、入館者が大幅に減少した。

都祁交流センターの利用者数は地域のさまざまな行事が中止となったこともあり約11,400人の減少であった。

奈良市都祁体育館は、屋内施設ということもあり利用者の人数制限と感染予防対策を並行して管理運営を行った。感染リスクを避ける仕組みとして予約システム「e古都なら」の利用は増加したが利用者数については、臨時休館が影響し、約2,100人の減少となった。

また、奈良市都祁生涯スポーツセンター4施設でも、人数制限が6月以降継続されていたため、球技場の利用者数は約4,000人の減少となった。テニスコートについては、密にならない少人数で楽しめるということもあり、昨年よりも約100人増加した。

多目的コートについては、感染リスクの高い高齢者によるゲートボール等の練習が全く出来ない状況であったため、大幅な減少となった。

クラブハウス内の会議室等については、3密回避が難しいため利用者はなかった。

(事業内容)

都祁地域において、市民の文化芸術の振興及び市東部地域住民との交流促進に努め、生涯スポーツ宣言地域として各種団体等による幅広い施設利用を推進し、市東部地域の発展に寄与するための事業を計画していたが、施設は約2ヶ月間の臨時休館を余儀なくされ、6月に施設利用を再開した後も感染リスクは収まらず、事業実施は困難であった。結局全ての事業は見送ることとなり貸館事業の実績だけとなった。

貸借対照表

令和3年3月31日現在

(単位:円)

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減	備 考
I 資産の部				
1. 流動資産				
現金預金	251,224,478	221,926,158	29,298,320	
現金	5,468,047	3,626,886	1,841,161	
当座預金	0	9,590	△ 9,590	
普通預金	245,756,431	218,289,682	27,466,749	
未収金	7,021,084	3,333,557	3,687,527	
前払金	1,702,270	1,835,660	△ 133,390	
商品	3,554,659	3,477,228	77,431	
貯蔵品	121,447	136,777	△ 15,330	
流動資産合計	263,623,938	230,709,380	32,914,558	
2. 固定資産				
(1) 基本財産				
定期預金	50,000,000	50,000,000	0	
基本財産合計	50,000,000	50,000,000	0	
(2) 特定資産				
財政変動準備積立金	132,000,000	132,000,000	0	
減価償却引当預金	2,129,584	1,520,377	609,207	
書道芸術振興積立金	37,232,436	37,355,319	△ 122,883	
永年在会給付事業積立預金	10,435,742	11,582,742	△ 1,147,000	
運営基金積立準備預金	7,972,291	7,797,291	175,000	
共済事業引当預金	750,423	1,119,383	△ 368,960	
記念事業費積立預金	11,256,263	11,256,263	0	
特定資産合計	201,776,739	202,631,375	△ 854,636	
(3) その他の固定資産				
車両運搬具	609,209	1,218,416	△ 609,207	
什器備品	92,237	2	92,235	
リース資産	8,391,600	11,268,720	△ 2,877,120	
預託金	9,140	9,140	0	
その他固定資産合計	9,102,186	12,496,278	△ 3,394,092	
固定資産合計	260,878,925	265,127,653	△ 4,248,728	
資産の部合計	524,502,863	495,837,033	28,665,830	
II 負債の部				
1. 流動負債				
未払金	107,424,469	116,720,428	△ 9,295,959	
前受金	988,900	424,190	564,710	
預り金	6,930,006	12,350,733	△ 5,420,727	
リース債務	2,877,120	2,877,120	0	
流動負債合計	118,220,495	132,372,471	△ 14,151,976	
2. 固定負債				
リース債務	5,514,480	8,391,600	△ 2,877,120	
固定負債合計	5,514,480	8,391,600	△ 2,877,120	
負債の部合計	123,734,975	140,764,071	△ 17,029,096	
III 正味財産の部				
1. 指定正味財産				
寄付金	86,003,617	86,003,617	0	
指定正味財産合計	86,003,617	86,003,617	0	
(うち基本財産への充当額)	(50,000,000)	(50,000,000)	(0)	
(うち特定資産への充当額)	(36,003,617)	(36,003,617)	(0)	
2. 一般正味財産	314,764,271	269,069,345	45,694,926	
(うち特定資産への充当額)	(165,773,122)	(166,627,758)	(△ 854,636)	
正味財産の部合計	400,767,888	355,072,962	45,694,926	
負債及び正味財産合計	524,502,863	495,837,033	28,665,830	

収 支 計 算 書

令和2年4月1日から令和3年3月31日まで

(単位：円)

科 目	予 算 額	決 算 額	差 異	備 考
I 一般正味財産増減の部				
1. 経常増減の部				
(1) 経常収益				
① 基本財産運用益				
基本財産受取利息	29,000	22,500	6,500	
② 特定資産運用益				
特定資産受取利息	137,000	136,206	794	
③ 受取入会金				
受取入会金	175,000	144,000	31,000	
④ 受取会費				
受取会費	38,504,000	36,075,400	2,428,600	
⑤ 事業収益				
入場料収益	33,168,000	1,747,214	31,420,786	
観覧料収益	300,000	89,400	210,600	
受講料収益	93,114,000	33,298,775	59,815,225	
出品料収益	600,000	568,000	32,000	
協賛金収益	0	2,732,580	△ 2,732,580	
参加費収益	1,864,000	151,000	1,713,000	
普及事業収益	485,000	65,500	419,500	
小売業収益	4,440,000	1,536,140	2,903,860	
受取手数料	4,117,000	1,128,325	2,988,675	
事業受託収益	220,000	175,000	45,000	
共催事業管理収益	8,822,000	2,398,620	6,423,380	
その他収益	535,000	1,243,760	△ 708,760	
⑥ 受取補助金等				
受取指定管理料	1,246,930,000	1,236,698,392	10,231,608	
受取地方公共団体補助金	109,495,000	108,800,858	694,142	
受取民間助成金	50,000	50,000	0	
⑦ 受取負担金				
受取負担金	36,006,000	16,707,588	19,298,412	
⑧ 雑収益				
受取利息	24,000	4,825	19,175	
雑収益	2,288,000	4,218,633	△ 1,930,633	
運営協力金等収益	1,650,000	574,739	1,075,261	
経常収益計	1,582,953,000	1,448,567,455	134,385,545	

科 目	予 算 額	決 算 額	差 異	備 考
(2) 經常費用				
① 事業費				
給料手当	457,846,000	502,124,346	△ 44,278,346	
臨時雇賃金	58,847,000	46,545,072	12,301,928	
福利厚生費	107,744,000	97,149,340	10,594,660	
視察費	100,000	4,000	96,000	
旅費交通費	1,471,000	229,970	1,241,030	
通信運搬費	10,910,000	7,977,456	2,932,544	
減価償却費	3,574,000	3,564,372	9,628	
消耗什器備品費	1,569,000	243,201	1,325,799	
消耗品費	31,445,000	14,281,229	17,163,771	
修繕費	20,099,000	16,552,274	3,546,726	
印刷製本費	16,328,000	8,347,712	7,980,288	
燃料費	1,769,000	880,764	888,236	
光熱水料費	254,909,000	191,298,391	63,610,609	
賃借料	32,600,000	23,657,897	8,942,103	
保険料	9,251,000	6,171,213	3,079,787	
諸謝金	46,156,000	19,132,640	27,023,360	
租税公課	68,028,000	65,136,044	2,891,956	
支払負担金	3,793,000	3,699,767	93,233	
支払助成金	66,756,000	39,108,505	27,647,495	
委託費	315,331,000	269,390,428	45,940,572	
会議費	100,000	7,668	92,332	
支払手数料	8,168,000	3,102,867	5,065,133	
広告宣伝費	3,735,000	1,030,300	2,704,700	
仕入	1,787,000	921,776	865,224	
原材料費	1,620,000	1,194,388	425,612	
医薬材料費	1,327,000	1,143,003	183,997	
雑費	169,000	7,400	161,600	
② 管理費				
役員報酬	175,000	28,000	147,000	
給料手当	51,150,000	51,499,557	△ 349,557	
福利厚生費	9,642,000	9,653,453	△ 11,453	
研修費	51,000	50,270	730	
旅費交通費	7,000	5,970	1,030	
通信運搬費	261,000	256,928	4,072	
消耗什器備品費	181,000	178,500	2,500	
消耗品費	368,000	367,335	665	
修繕費	8,000	0	8,000	
燃料費	28,000	25,000	3,000	
賃借料	4,080,000	3,989,431	90,569	
保険料	5,000	3,200	1,800	
諸謝金	426,000	398,500	27,500	
租税公課	51,000	44,012	6,988	

科 目	予 算 額	決 算 額	差 異	備 考
支払負担金	137,000	122,149	14,851	
委託費	2,587,000	2,271,500	315,500	
支払手数料	514,000	507,080	6,920	
経常費用計	1,595,103,000	1,392,302,908	202,800,092	
評価損益等調整前当期経常増減額	△ 12,150,000	56,264,547	△ 68,414,547	
評価損益等計	0	0	0	
当期経常増減額	△ 12,150,000	56,264,547	△ 68,414,547	
2. 経常外増減の部				
(1) 経常外収益				
① 受取補助金等				
受取地方公共団体補助金	0	5,557,694	△ 5,557,694	
② 雑益				
雑益	0	6,260,979	△ 6,260,979	
経常外収益計	0	11,818,673	△ 11,818,673	
(2) 経常外費用				
① 特別退職金				
特別退職金	0	5,557,694	△ 5,557,694	
② 雑損失				
雑損失	0	1,556,500	△ 1,556,500	
経常外費用計	0	7,114,194	△ 7,114,194	
当期経常外増減額	0	4,704,479	△ 4,704,479	
他会計振替前当期一般正味財産増減額	△ 12,150,000	60,969,026	△ 73,119,026	
税引前当期一般正味財産増減額	△ 12,150,000	60,969,026	△ 73,119,026	
法人税、住民税及び事業税	3,324,000	15,274,100	△ 11,950,100	
当期一般正味財産増減額	△ 15,474,000	45,694,926	△ 61,168,926	
一般正味財産期首残高	269,070,000	269,069,345	655	
一般正味財産期末残高	253,596,000	314,764,271	△ 61,168,271	
II 指定正味財産増減の部				
当期指定正味財産増減額	0	0	0	
指定正味財産期首残高	86,004,000	86,003,617	383	
指定正味財産期末残高	86,004,000	86,003,617	383	
III 正味財産期末残高	339,600,000	400,767,888	△ 61,167,888	

正味財産増減計算書

令和2年4月1日から令和3年3月31日まで

(単位：円)

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減	備 考
I 一般正味財産増減の部				
1. 経常増減の部				
(1) 経常収益				
① 基本財産運用益				
基本財産受取利息	22,500	29,237	△ 6,737	
② 特定資産運用益				
特定資産受取利息	136,206	120,886	15,320	
③ 受取入会金				
受取入会金	144,000	167,500	△ 23,500	
④ 受取会費				
受取会費	36,075,400	37,375,300	△ 1,299,900	
⑤ 事業収益				
入場料収益	1,747,214	19,583,900	△ 17,836,686	
観覧料収益	89,400	113,400	△ 24,000	
受講料収益	33,298,775	58,574,182	△ 25,275,407	
出品料収益	568,000	583,000	△ 15,000	
協賛金収益	2,732,580	0	2,732,580	
参加費収益	151,000	674,350	△ 523,350	
普及事業収益	65,500	355,500	△ 290,000	
小売業収益	1,536,140	2,996,072	△ 1,459,932	
受取手数料	1,128,325	4,351,554	△ 3,223,229	
事業受託収益	175,000	1,316,850	△ 1,141,850	
共催事業管理収益	2,398,620	12,153,440	△ 9,754,820	
その他収益	1,243,760	1,422,280	△ 178,520	
⑥ 受取補助金等				
受取指定管理料	1,236,698,392	1,283,336,259	△ 46,637,867	
受取地方公共団体補助金	108,800,858	103,950,922	4,849,936	
受取民間助成金	50,000	2,253,000	△ 2,203,000	
⑦ 受取負担金				
受取負担金	16,707,588	33,635,277	△ 16,927,689	
⑧ 雑収益				
受取利息	4,825	4,598	227	
雑収益	4,218,633	4,027,767	190,866	
運営協力金等収益	574,739	319,142	255,597	
経常収益計	1,448,567,455	1,567,344,416	△ 118,776,961	

科 目	当 年 度	前 年 度	增 減	備 考
(2) 經常費用				
① 事業費				
給料手当	502,124,346	523,594,084	△ 21,469,738	
臨時雇賃金	46,545,072	35,652,822	10,892,250	
福利厚生費	97,149,340	98,661,913	△ 1,512,573	
視察費	4,000	0	4,000	
旅費交通費	229,970	766,350	△ 536,380	
通信運搬費	7,977,456	8,246,448	△ 268,992	
減価償却費	3,564,372	2,987,885	576,487	
地方公共団体帰属備品等購入費	0	538,600	△ 538,600	
消耗什器備品費	243,201	194,966	48,235	
消耗品費	14,281,229	18,094,931	△ 3,813,702	
修繕費	16,552,274	8,706,904	7,845,370	
印刷製本費	8,347,712	12,918,799	△ 4,571,087	
燃料費	880,764	2,723,060	△ 1,842,296	
光熱水料費	191,298,391	213,885,523	△ 22,587,132	
賃借料	23,657,897	25,858,252	△ 2,200,355	
保険料	6,171,213	7,170,888	△ 999,675	
諸謝金	19,132,640	35,449,258	△ 16,316,618	
租税公課	65,136,044	59,946,266	5,189,778	
支払負担金	3,699,767	3,763,588	△ 63,821	
支払助成金	39,108,505	53,556,884	△ 14,448,379	
委託費	269,390,428	285,966,263	△ 16,575,835	
会議費	7,668	31,694	△ 24,026	
支払手数料	3,102,867	5,859,319	△ 2,756,452	
広告宣伝費	1,030,300	2,025,880	△ 995,580	
仕入	921,776	1,160,631	△ 238,855	
原材料費	1,194,388	877,214	317,174	
医薬材料費	1,143,003	998,210	144,793	
雑費	7,400	55,578	△ 48,178	
② 管理費				
役員報酬	28,000	77,440	△ 49,440	
給料手当	51,499,557	50,658,629	840,928	
福利厚生費	9,653,453	9,348,264	305,189	
研修費	50,270	110,600	△ 60,330	
旅費交通費	5,970	13,490	△ 7,520	
通信運搬費	256,928	249,573	7,355	
消耗什器備品費	178,500	0	178,500	
消耗品費	367,335	473,554	△ 106,219	
印刷製本費	0	15,660	△ 15,660	
燃料費	25,000	31,000	△ 6,000	
賃借料	3,989,431	3,997,683	△ 8,252	
保険料	3,200	3,200	0	
諸謝金	398,500	620,000	△ 221,500	
租税公課	44,012	49,541	△ 5,529	

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減	備 考
支払負担金	122,149	2,788,791	△ 2,666,642	
委託費	2,271,500	2,579,500	△ 308,000	
支払手数料	507,080	154,248	352,832	
経常費用計	1,392,302,908	1,480,863,383	△ 88,560,475	
評価損益等調整前当期経常増減額	56,264,547	86,481,033	△ 30,216,486	
評価損益等計	0	0	0	
当期経常増減額	56,264,547	86,481,033	△ 30,216,486	
2. 経常外増減の部				
(1) 経常外収益				
① 受取補助金等				
受取地方公共団体補助金	5,557,694	0	5,557,694	
② 雑益				
雑益	6,260,979	0	6,260,979	
経常外収益計	11,818,673	0	11,818,673	
(2) 経常外費用				
① 固定資産除去損				
車両運搬具除去損	0	1	△ 1	
② 特別退職金				
特別退職金	5,557,694	0	5,557,694	
③ 雑損失				
雑損失	1,556,500	25,000	1,531,500	
経常外費用計	7,114,194	25,001	7,089,193	
当期経常外増減額	4,704,479	△ 25,001	4,729,480	
他会計振替前当期一般正味財産増減額	60,969,026	86,456,032	△ 25,487,006	
税引前当期一般正味財産増減額	60,969,026	86,456,032	△ 25,487,006	
法人税、住民税及び事業税	15,274,100	28,847,500	△ 13,573,400	
当期一般正味財産増減額	45,694,926	57,608,532	△ 11,913,606	
一般正味財産期首残高	269,069,345	211,460,813	57,608,532	
一般正味財産期末残高	314,764,271	269,069,345	45,694,926	
II 指定正味財産増減の部				
当期指定正味財産増減額	0	0	0	
指定正味財産期首残高	86,003,617	86,003,617	0	
指定正味財産期末残高	86,003,617	86,003,617	0	
III 正味財産期末残高	400,767,888	355,072,962	45,694,926	

財 産 目 録

令和3年3月31日現在

(単位：円)

科	目	金 額
I 資産の部		
1. 流動資産		
	現金預金	251,224,478
	現金	5,468,047
	普通預金	245,756,431
	南都銀行	241,575,149
	近畿労働金庫	4,181,282
	未収金	7,021,084
	前払金	1,702,270
	商品	3,554,659
	貯蔵品	121,447
	流動資産合計	263,623,938
2. 固定資産		
基本財産		
	定期預金	50,000,000
	南都銀行	10,000,000
	近畿労働金庫	10,000,000
	奈良県農業協同組合	10,000,000
	奈良信用金庫	10,000,000
	大和信用金庫	10,000,000
特定資産		
	財政変動準備積立金	132,000,000
	減価償却引当預金	2,129,584
	書道芸術振興積立金	37,232,436
	永年在会給付事業積立預金	10,435,742
	運営基金積立準備預金	7,972,291
	共済事業引当預金	750,423
	記念事業費積立預金	11,256,263
その他固定資産		
	車両運搬具	609,209
	什器備品	92,237
	リース資産	8,391,600
	預託金	9,140
	固定資産合計	260,878,925
	資産合計	524,502,863
II 負債の部		
1. 流動負債		
	未払金	107,424,469
	前受金	988,900
	預り金	6,930,006
	リース債務	2,877,120
	流動負債合計	118,220,495
2. 固定負債		
	リース債務	5,514,480
	固定負債合計	5,514,480
	負債合計	123,734,975
	正味財産	400,767,888